



社長の背中

景 春 麗

JING CHUN LI

日本に来てもうすぐ二年。思えばもう二年以上も両親の顔を見ていません。私は幼い頃より両親の苦勞を肌で感じてきました。そして自分が成長するにつれ、両親の偉大さがわかるようになってきました。私はそんな両親に、いつか恩返しをしたいと思っています。

日本に行けることが決まった時の両親の顔は本当にうれしそうで、私は今でも忘れることができません。でもいざ私が日本へ行くとなると、とても心配そうな顔をしていました。実は私は社会人としての経験が浅かったので、日本で本当にやっていけるかどうか、大きな不安を抱えて来日しました。

しかしそんな不安は、それほど時間が掛かることなく忘れることができました。研修が始まった頃は言葉の壁にぶつかり、また研修中も失敗ばかりしていました。しかし、どんな時でも社長さんは私を一度も叱ることなく、常にやさしくていねいに指導してくれたのです。そして私はいつも悔しい想いをしながら、いつになったら先輩のように、日本語もミシンも上手にできるのか、ということ悩んでいました。そんな私を社長さんはいつも励ましながら温かく支えてくれました。

また毎日忙しい社長さんは、日本文化をたくさん知って欲しいとの思いから、時間を作っては色々な所へ連れて行ってくれます。中華料理

の店にも食べに連れて行ってくれます。そんな時私が遠慮して余り食べないでいると社長さんは決まって「いっぱい食べないと大きくなれないよ」と言います。この言葉は聞きなれた父の言葉と同じです。そんな時は両親のようにとても親しみを感じます。

また社長さんは、とても「働き者」です。よく私たちの仕事を手伝ってくれます。初めてその光景を目の当たりにした時は、ショックを受けたほどです。なぜなら私の知る中国の社長とは全然違うからです。ただ時々疲れている後姿を見ると、幼い頃の両親の姿を思い出さずにはいられません。あの頃の両親は、いつもくたくたになるまで働いていました。だからそんな姿を見ると、真っ先に体のことを心配してしまいます。

私はこの二年間で技術的なこと以外にも、様々なことを学ぶことができました。相手を思いやる気持ちは、意識的に作られるものではなく、その人の人間性によって生まれるものであるということを、社長さんの姿から教わりました。今は日本人の心、そして社長さんの心に少しでも近づきたい気持ちです。

あと一年で帰国しなければなりません、その日を想像すると今でも涙がこぼれそうになります。だから私は残りの一年を悔いのないように過ごしたい。そして社長さんの背中に両親への思いを寄せつつ、恩返しをするつもりで頑張っていこうと思っています。

- ・区 分 技能実習生
- ・国 籍 中国
- ・職 種 婦人子供服製造
- ・受入れ企業 有限会社コポリモードカンパニー
- ・受入れ団体 PNJ 事業協同組合